



上川管内公立小中学校事務職員協議会  
 発行者 広報担当 菊地康子(東川中)  
 第4号 2016.11.25



風邪に気をつけて!

旭川以北では、心の準備をする前に大雪がふり、あっという間に根雪になってしまいましたが、みなさんいかがお過ごしでしょうか。

さて、大変遅くなりましたが、第66回北海道公立小中学校事務研究大会釧路大会に参加されたみなさんから、分科会に参加しての感想をいただきましたのでご覧ください。



## 第1分科会

### 「学校財政財務活動の具体的展開」に参加して

美深町立美深中学校 岩本 和也

第1分科会では、学校財政財務活動をテーマとして保護者負担軽減への取り組み、予算要望の取り組み、またそれらに付随する市町村教育委員会との関係についての議論・検証が行われました。

宗谷支部の発表では、バランスシートを活用した学校財政課題の解決を目指してということで、保護者負担軽減への取り組みが提言されました。バランスシートとは公費・私費・他団体からの協力金を学校経費の大きな費目として、これらを表およびグラフにまとめることにより、学校全体の予算の内訳やその割合を示すものでした。学校の総予算を“見える化”することにより、学校予算について校内職員や他学校の事務職員との共有化、市町村教育委員会への要望につなげることができるということが分かりました。

空知支部からは予算要望活動のこれまでの展開とそれに伴う学校徴収金の実態と検証についての発表がありました。予算要望に向けた生徒・保護者アンケートはこれまでの研修で議論に出てくることありましたが、各学校に向けた「財務財政グループ学校徴収金アンケート」を実施して、他学校の私費会計の実態調査を行ったという話を聞くことができました。

根室支部の発表では、学校財政財務活動に係る市町村教育委員会との関係についての議論がされました。備品管理の方法に係わる学校事務職員と市町村教育委員会



にあった“溝”の話から、どのように現在の市町村における事務担当者会議までたどり着くことができたのか説明を聞くことができました。事務担当者会議の詳しい話の中で印象に残ったのが、市町村教育委員会に要望する内容が学校事務職員の単独の意見に基づくものなのか、それとも学校全体の総意に基づくものになっているのかということでした。

第1分科会での議論・交流を通して、保護者負担軽減への取り組みやこれを説明するための予算要望活動は、学校職員や生徒、保護者など様々な“人”との関わりの中で行わなければならないことを改めて考えることができました。学校関係者の意見を集める手段は様々ありますが、最終的にそれを全体の意見としてまとめ上げ、うまく説明していかなければ保護者負担軽減にはつながらないということも実感できる研究大会でした。



## 第66回北海道公立小中学校事務研究大会参加報告

釧路町立釧路小学校 三好 千恵

### 第2分科会「保護者負担の現状と公費化の取り組み」

- ・石狩支部：「保護者負担軽減・公費化の具体化」
- ・後志支部：「『学校づくりと学校事務』  
～保護者負担の軽減に向けて～」
- ・留萌支部：「保護者負担公費化に向けて  
～お金のかからない学校づくりをめざして～」

今年度の全道事務研釧路大会では、第2分科会に参加しました。テーマは「保護者負担の現状と公費化の取り組み」ということで、石狩支部（千歳市）から「保護者負担軽減・公費化の具体化」・後志支部（仁木町）から『学校づくりと学校事務』～保護者負担の軽減に向けて～・留萌支部（遠別町）から「保護者負担公費化に向けて～お金のかからない学校づくりをめざして～」の3本の提起がありました。

討議の柱『1. 保護者負担について、もう一度考えてみよう。(1) 保護者負担の問題点 (2) どうやって減らしていくか 2. 保護者負担の公費化に向けて、動き出そう。(1) 校内での協力、協働 (2) 行政への働きかけと保護者へのアプローチ』に沿って討議は進められました。

各支部のレポートに共通していたのは、学校徴収金の内容を調査や担当者との話し合いにより可視化し、どこに課題があるのか、どの点がもっと工夫できるのか、洗い出している部分だと思いました。提言したそれぞれの市や町の規模や学校数、事務職員の人数もまちまちですが、自分のいる市町村ではどのような方法が適しているのか参考になるのではないのでしょうか。

討議の中で印象的だったのは、保護者からお金を徴収することを学校は安易に考えていないか、根強く残る『受益者負担』の考えからどう抜け出すか、という問いかけでした。更に、どこの自治体も年々財政が厳しくなっている実態もあり、決して楽な道ではありませんが、ひとつの物品や予算項目でも『公費化が実現した』という事実を増やしている事務職員、学校、市町村があるのだ、という事実は私たちに希望と意欲を与えてくれるように思います。

最後になりますが、提言者の皆さん、分科会を進めてくださった役員の皆さん、助言者の大会講師の櫛部さんそして藤崎さん、素晴らしい時間をありがとうございました。



## 全道研釧路大会第3分科会に参加して

富良野市立布礼別小学校 大槌 範夫

冒頭に、これは第3分科会の内容報告ではなく、あくまで参加した私が見て聞いて感じたことを我が儘に大

雑把に文章にしたものであり、内容の詳細は要項並びに資料と他の参加者からの聴取が必須であることを申し述べます。

去る9月8日～9日に開催された第66回北海道公立小中学校事務研究大会釧路大会（以後「全道研」）に台風の影響を懸念しつつ7日に富良野を発ち、その途上台風の爪痕の大きさを目の当たりにして、被害に遭われた多くの皆さんのご苦勞に心からのお見舞いと、速やかに元の生活を取り戻されることを強く願いながら釧路の地へたどり着きました。（各日の夜の部の研修については、どなたかが詳細にレポートされると思いますのでここでは、一切ふれません。）

全道研第3分科会「学校づくりと学校事務」は、上川支部（上事協）「市町村の枠を越えた学校間連携～トライアンドエラー 失敗しても大丈夫 私たちの『教育環境整備』～」、渡島支部「学校づくりを担う事務職員のあり方～渡島第3ブロックの活動から～」、十勝支部「みんなでとりくむ情報コミュニケーション～学校にいるからこそ学校事務職員～」、網走支部「学校づくりアンケートから感じた事務職員の思い～活動から得た『苦悩・葛藤・発見・喜び』～」の四つがこの順番で問題提起がなされ、その後質問、意見の交流という流れで、第一日目が始まりました。

上川支部（上事協）から富良野ブロック富良野小学校の小林さんが、ブロック研・管内研等数回の発表を経て別紙資料、パワーポイントを使い上事協の体制や研修のあり方などを含めて過不足なく、極めて明快かつコンパクトにまとめ問題提起を行いました。私見ではありますが、小林さんのベストパフォーマンスだったと確信します。勿論、小林さんを支えたレポート検討委員会の皆さんの努力にも敬意を表したいと思います。（内容については、上事協の皆さんはご存じですので割愛します。）発表後、質問・意見は特になく意見交流の場となり、上富良野小学校唐島さんから予算要望に関して、前任校と現任校での取り組みの一端が報告され、他支部からは「システムがない」、「教委と折衝はするもののその後の詳細が不明である」、「教委の担当者が代わるとリセットされてしまう」など悩ましい報告もありました。残念ながら（あるいは予想通り）予算要望や環境整備に関して個別の取り組みについてはかなり興味関心をもっていたに十分感じられるものの、上川支部（上事協・富良野ブロック）の研究のあり方や考え方、

学校間連携会議の活動について殆どふれられなかったのは残念でした。

他支部からは、渡島支部の各市町村や各学校での実践と課題の交流（「何を行っているのか？」）、事務職員をとりまく上記の把握と分析（「何が求められてきているのか？」）を通して、学校づくりの具体的実践の見直しなどと、学校づくりを担う学校事務職員の職務と今後のとりくみの方向性を考えることにより学校内外からの認知を得ることができるのではないかと。十勝支部の情報の発信に着目し、共通の様式（「実践シート」・「情報コミュニケーション発信シート」）を用いて実践を集積していくことにより学校づくりに繋げ、さらに若い世代に繋げていける。網走支部の事務職員の意識調査と教職員及び児童生徒アンケートをとることにより、教職員、児童・生徒、保護者、地域の人たちとの連携を重視し、事務職員の「思い」もまた大切にしていけることを通して、よりよい教育環境の整備に役立てていきたい。との問題提起がされています。（私の理解が誤っている可能性が極めて大ですので必ず要項のレポート本文を熟読されることを望みます。）

第二日目は、1. 学校づくりを目指した校内におけるとりくみ 2. 学校づくりを目指した職場、学校間連携、事務職員のネットワークの現状と課題 3. よりよい学校づくりを目指して今後どうとりくむのか の3つの討議の柱を中心に、ベテラン（年寄り）から若い世代へ伝えたいことなど、司会者の素晴らしい進行（時には無茶ぶり）により多くの参加者の発言があり、真摯な中にも和やかな雰囲気を保ちつつ分科会が終了しました。

（大荒れの天候が気になったのは私だけでしょうか？）

最後に、問題提起の小林さん、司会の坂本さん（上富良野中学校）に本当にお疲れ様でした、ありがとうございますとお伝えしたいと思います。



司会の坂本さんと  
発表者の小林さん



お二人とも長い二日間だったのではないのでしょうか。



## 全道研釧路大会第4分科会に参加して

東川町立東川第三小学校 宮下智哉

第4分科会では、3本のレポートが提出されました。主な視点としては、（1）学校運営における事務改善の実態交流 （2）これからの学校と事務職員についての2つでした。

小中学校の事務職員は原則として学校に1名しかいないことや、市町村によって業務のシステムが異なることなどから、統一したフォーマットが用意しにくいというのは日々感じているところではありますが、今回参加してみて、全道的にはさらにその差異が大きいことを痛感しました。

学校再編やミッション加配など、最近になって「人」「物」「金」にまつわる動きが目立つようになってきていますが、小樽市支部や檜山支部のレポートはまさにそのような時流の中でのタイムリーなレポートでした。この問題については、やはり役所主導ゆえに現場との乖離が常に問題点となりうるのだと思いながら聞いていました。

また、事務職員加配のない大部分の学校にとっては、業務そのものが「1人しかいない事務職員」の「経験と個性」に依拠するところが大きいことは、ある意味仕方ないことですが、今回の日高支部のレポートを読んで感じたのは、「人が入れ替わる」ということを常に意識しながら日々の仕事に取り組んでいくということが何よりも大切なことだということです。私も4年前に前任校を異動する際、後任は新採用の方だったのですが、十分な引き継ぎをすることはとてもできなかった記憶があります。今回のようなフォーマットが全道的に広がり、定着することによって業務の改善がなされていくのではという期待が持てそうな分科会で、個人的には大変大きな収穫だったと思っています。





## 全道研釧路大会第5分科会感想レポート

美深町立仁宇布小中学校 鈴木 くるみ

第5分科会では、「PFシート（プライベート・フィナンシャル＝私費）」作成を軸に、保護者負担の実態把握をし、保護者負担の軽減・解消に向けて議論、交流を進めました。一日目は、PFシートに取り組んだ実践報告をポスターセッションという形で交流し、二日目はワールドカフェという手法を用いながら、保護者負担解消について意見交流を行いました。都合の関係で、二日目は最後まで参加することができませんでしたが、二日間を通して私自身今まであまり考えてこなかった保護者負担について、考えを深めることができました。

PFシート実践報告のポスター発表では、自校の紹介や各市町村での予算の状況、これまでの保護者負担解消に向けた取り組み、そして発表者がPFシートを実践しそれぞれがどのように感じ、またこれからどのように保護者負担解消に取り組んでいきたいかなどを聞くことができました。実践者全員の発表を聞くことはかないませんでした。共通していたことは保護者負担の実態把握、解消には教職員との密なコミュニケーションが不可欠であるということでした。教材費や学級費の内容や金額については、教職員に委ねられているということもありますが、保護者負担解消を妨げている原因として、予算不足の他に「意識の差」が挙げられるからだ、二日目の意見交流を経て感じました。保護者負担解消にはたくさんのハードルがありますが、今回紹介されたPFシートは、保護者負担の実態がグラフとなり、誰の目にもわかりやすくなることから、教職員との意識の差を埋めるツールとしても期待できそうでした。

最後に、交流の中で他管内の先輩から、一年目はとにかく先生方の話を聞いて学校のことをよく観察するといいとアドバイスを頂きました。保護者負担解消だけでなく、他の課題に取り組む上でも大切な助言をありがたく思い、実りの多い分科会になったと感じています。



第5分科会で発表の野田さん。落ち着いて聞きやすい上手な説明でした！



協力者のお二人。二日間お疲れ様でした！



### 編集後記

災害があり、開催が危ぶまれた釧路大会でしたが、上川からたくさんの会員が研究大会に参加されました。とても良い勉強をされてきたことと思います。お疲れ様でした。

これからも、日々の課題解決の積み重ねを行い、ブロック研や管内・全道研究大会で研鑽しあいましょう。